

# CITY X UNIVERSITY



大阪市立大学広報誌

Vol.10

January • 2012

◆ 新春特別企画

## 新年に寄せて

学長年頭所感・卒業生メッセージ

Vol.10  
CONTENTS

●P1 新春特別企画 新年に寄せて

### 学長年頭所感

アジアをリードする都市研究の  
総合大学を目指して

大阪市立大学長 西澤 良記

### 卒業生メッセージ

経営者の発想をプラスして競争力を

コマツ 取締役会長 坂根 正弘 氏

実践型の学問への期待

阪和興業(株)代表取締役社長 古川 弘成 氏

### ●P3 OCU NEWS BOX

複合先端研究機構 神谷信夫教授らの研究成果が  
「10大ブレイクスルー」の1つに選定

レアメタル不要、大電気容量の  
有機スピン分子バッテリーを開発

豊崎プラザの研究プロジェクトが  
2011年度グッドデザイン特別賞を受賞 ほか

### ●P6 大学トピックス

「就職に強い大学ランキング」全国12位にランクイン

「全国大学の地域貢献度ランキング」全国9位にランクイン ほか



新春特別企画

# 新年に寄せて

学長年頭所感

卒業生メッセージ

## ◆ 学長年頭所感



大阪市立大学長

にしざわ よしき  
西澤 良記

明けましておめでとうございます。  
新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年、東日本大震災という大きな災害がわが国を襲いました。ここにあらためて、お亡くなりなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。本学では、この未曾有の大災害にあたり、学生ボランティア派遣や災害・防災に関する講演会などできるかぎりの復興支援を行ってきました。また、今回の出来事を契機に「都市防災研究」に全学的に取り組んでおり、研究成果を通じて被災地の復興や防災・減災に向けて提言をしていきます。

さて、昨年12月に橋下市長が就任し、大阪都構想の議論の場として府市統合本部が設置されました。大阪市が大変革していく流れのなかで、大阪府立大学と本学との一体経営も検討課題となっており、本学ではそれを受け、先月12日に理事長を本部長とする「法人統合戦略本部」を設置しました。戦略本部では法人統合の課題の整理を図るだけでなく、大阪府立大学とともに発展する大学像について、全学一体となって検討を行っていきます。大阪府立大学とも適宜意見交換を行い、合同で法人統合等を進めるための検討機関を早々に

立ち上げます。

両大学とも、社会が求める人材を育成し、都市大阪や関西の発展に貢献していきたい強い思いは同じです。法人統合により、それぞれの大学の伝統や個性を活かしながら、それぞれの強みをさらに強化していくことで、関西に公立大学の大きな知的拠点が生ずることになります。本学としても、これを機に、アジアをリードする都市研究の総合大学として、新たな姿を示していきたいと考えています。

また、今年は第2期中期目標、中期計画の初年度に当たりますが、「大阪をはじめとする関西圏のシンクタンク、都市科学分野の教育研究」「専門性の高い社会人の育成」「国際力の強化」を3つの重点戦略として掲げており、そ

## アジアをリードする 都市研究の総合大学を目指して

れらを柱として中期計画を実施していきます。

また一方で、嬉しいニュースとしては、昨年12月に米科学誌サイエンスが選んだ2011年10大業績の一つに、複合先端研究機構の神谷信夫教授らの光合成たんぱく質の構造解析に関する研究成果が挙げられました。大変な名誉で、誇りに思いますとともに、本学の「光合成を用いた次世代エネルギー研究」やそのプロジェクトが、さらに発展するよう大学としてもより一層支援していきたいと考えています。

この新しい年を充実した実りある年にするため、また、社会の要請に応える新たな公立大学像を創っていくため、大きな決意をもって臨む所存です。皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## ◆ 市大に期待すること



阪和興業(株)代表取締役社長

ふるかわ ひろなり  
古川 弘成氏

昭和44年 経済学部卒

阪和興業株式会社代表取締役社長。1946年奈良県出身。大阪市立大学経済学部卒業。阪和興業入社後、1996年阪和(香港)有限公司副社長兼アジア地域副支配人(中国・香港)を経て、1997年取締役役に就任。2011年より現職

## 実践型の 学問への期待

現在、私は関東在住の企業の役員や経営者、会計士、弁護士等を中心とした大阪市立大学の同窓会「柳光会」の世話人をさせていただいています。会の歴史は古く、大阪市立商業学校(大阪市立大学の前身)ご出身の野村財閥の創立者である野村徳七氏が、大正15年に柳橋の柳光亭で東京財界にて活躍する同窓生の会として創設したのがはじまりです。現在会員数は92名であり、西澤学長にもご出席いただき同窓の懇親を深めています。

企業人の立場として常日頃私が思っているの



## ◆ 市大に期待すること



コマツ 取締役会長  
さかね まさひろ  
**坂根 正弘氏**  
昭和38年 工学部卒

コマツ会長。1941年鳥根県出身。大阪市立大学工学部卒業。コマツ入社後、1989年取締役就任。小松ドレッサーカンパニー(現コマツアメリカ)社長を経て、2001年代表取締役社長に就任。2007年より現職。2010年から日本経団連副会長。2008年デミング賞本賞を受賞。著書に『ダントツ経営』(日本経済新聞出版社)など

### 経営者の発想を プラスして競争力を

日本とアメリカの大学を比較すると、アメリカの大学の場合は、こういう研究で優れている、あるいはこういう人材(学生)が欲しければこの大学だ、という大学の特色がはっきりしているのに対して、日本の場合は、偏差値や大学の規模の大小等の違いはあっても、みんな同じことをやっているという印象があり、とにかく個々の大学の特色という個性が見えにくいですね。

一方、市大の特色とは何かを考えると、大阪市という母体があって市長が経営者となれば、市大はそのシンクタンクあるいは研究開発本部というような立場かなと思います。であれば学長は、シンクタンクの社長であり研究開発本部長だという位置づけになります。それはそのまま、大学であっても経営者の視点が求められているということだと思います。また、そうでない

と「大学の特色を創る」という発想は生まれません。大阪の活性化に向けてなができるのかという、大学として先生方に自由に研究をやってもらうという良さは理解できますが、その研究の中からでてきた有望な芽をどう成果としてアウトプットにつなげるかということが、いま、すごく問われていると思います。

大学を経営として考えるというのは、どの大学で私が話しても大学の方から嫌がれるところです。しかし、我々企業人からすると、基本は顧客のニーズにどう応えるかであり、それを大学に置き換えると大学にとっての顧客とは誰なのかという議論は非常に大事だと思います。顧客は、学生なのか、学生を送り出す社会なのか、そういう議論すら嫌がっている、大学としての特色、個性は生まれてこないし、社会から見ると非常に分かりづらいのです。

大学経営を考える中で、資源の集中と選択にもっと優先順位を付けていく必要があるのではないのでしょうか。市大の場合でいえば、複合先端研究機構というものを作って人工光合成研究を横断的に研究していくというのはいいことだと思いますが、そこでもやりたいことをやりっぱなしというのは絶対にだめで、経営者の発想がプラスされていかないと最後は競争に負けてしまうのではないかと心配しています。市大にはぜひ、大阪の産業の活性化につながるようなビジネスモデルを大学から育てていってほしいと思っています。

### 本当の知は 実践を伴うもの

今の学生の問題点というのは、何かを与えられた時にまず、自分が考えようとしていないことです。探す力—検索力が優れた人が優れた思考力だと間違った考えがあるのではないのでしょうか。

私自身が一番大事にしてきた言葉に「知行合一」があります。この知識と行動は合わさって1つという言葉は、本当の知は実践を伴わなければならないということです。例えば、研究のテーマが与えられたら、自分の今持っている知識をもとに「こうではないか」と考え、それから調べる。考える前に調べてしまうと、本質を見失ってしまいます。そして調べたら実行してみて、間違っていたらまたやり直す。行動を起こす中で勉強したものが、オリジナリティを持った自分だけの知識となるのであり、これこそが勉強の真髄だと思います。ただひたすら情報をかき集めてくるというのは、社会に出た時に通用しません。検索する前にまず考える癖をつける。大学時代は「しっかり考える」という習慣を身につけてほしいですね。



は、営利企業であっても納税や企業活動を通じて社会に貢献できる存在でありたいということです。そのためには法令遵守(コンプライアンス)を重んじる企業統治(ガバナンス)を目指し、「人は城 人は石垣」の格言にもあるように、優秀な人材を育成して行くことが重要です。

これからの大阪市立大学に期待することは、「社会への貢献」と「人材の育成」です。

産学協同をより強化し革新的な技術・知識の開発、医学や介護面での貢献はもちろん、市民の法律相談等よりいっそう総合大学としての特長を生かし普遍的なものとして拡大していって欲しいと思います。

また、留学生の拡大や語学教育の充実、海外大学との連携強化など国際性の強化に励ん

で頂くとともに、社会人のための大学院にも力を入れ、より社会に貢献できる人材の育成に努めていただきたいと思います。

今後様々な時代の変革があろうとも、大阪市立大学が持っているアカデミックな世界に閉じこもらない学問、社会に融和した実践型の学問は不変です。今後ますます実践型大学は必要性が高まっていくと考えられるため、大阪市立大学のさらなる発展に大いに期待しています。

### かけがえのない 友人との出会い

大阪市立大学の合格発表当日、三月には珍しく雪が降っていたことを覚えています。学生

運動が激しかった時代でしたが、所属していた落語研究会の活動を通してかけがえのない友人を得ることができました。付き合いは卒業して数十年が経過した今も続き、大学時代の一番の財産だと思います。

ただ本来学生が一番に重きを置くべき学業を疎かにした点についてはいささか後悔しています。経済学や商学を学んでいたのだから会計士等の資格取得を目指すべきだったし、また英語や中国語等の語学の勉強にも励むべきだったと思います。実際に社会人となってから必要となり、おおいに苦勞することになりましたから。学生諸君には、今からでも遅くないのでしっかりと勉学に励んでいただきたいと思っています。

## 1 複合先端研究機構/理学研究科 神谷信夫教授らの研究成果がサイエンス誌2011「10大ブレイクスルー」の1つに選ばれました

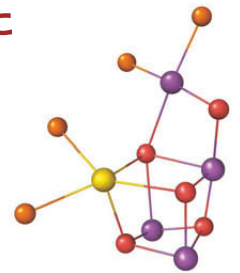
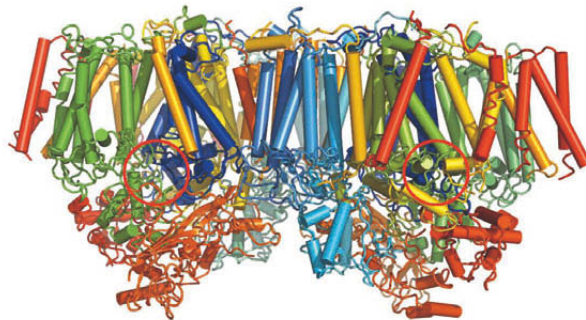
**本** 学複合先端研究機構/理学研究科の神谷信夫教授と岡山大学大学院 自然科学研究科の沈建仁教授らによる光合成タンパク質の構造解析の研究成果が、2011年における10のブレイクスルー「Breakthrough of the Year」の1つとして、米科学誌サイエンスにより選出されました。

この成果は、昨年4月に英科学誌『Nature』で発表されたもので、植物が光合成を行う際に、水を分解して酸素を発生させる光化学系II複合体(PSII、図1)というタンパク質の詳細な構造を明らかにしました。

このタンパク質はこれまで中心となる部分の正確な原子配置が明らかになっておらず、神谷教授らの研究グループはPSIIの酸素を発生させる中心が4つのマンガン原子、5つの酸素原子、1つのカルシウム原子からできていることを解明しました。(図2)

サイエンス誌ではこの成果について、「エネルギー源のカギをにぎる」と評価して

(図1)光化学系II複合体の全体構造。2個の単量体からなる2量体構造をとっており、2個の赤丸の場所に酸素発生中心があります



(図2)酸素発生中心の詳細な化学構造。紫色はマンガン原子、黄色はカルシウム原子、赤は金属原子を結ぶ酸素原子、オレンジ色は酸素発生にかかわる水の酸素原子です

います。

今後、この成果を基に人工触媒が開発されれば、人工的に光合成を行い、太陽光から化学燃料を作り出すことができるようになります。近い将来に人類が直面するエネルギー問題や環境問題、食糧問題の解決につながると期待されています。

神谷教授は「1年間に世界中の科学者が報告する成果は膨大な数にのぼるので、そこからの10件の内に選ばれたことを大変光栄に思います。サイエンス誌が指

摘しているように、この成果は人工光合成を可能にする触媒の設計図にあたるものであり、今後はこれに基づいて新しい触媒を複合先端研究機構で開発できるように努力したいと思います」と話しています。



複合先端研究機構/理学研究科 神谷信夫教授

## 2 人工光合成 産学連携拠点整備について

**複** 合先端研究機構/理学研究科 神谷信夫教授のグループは、上記のように光合成の中核をなす複合体の構造を解明、橋本秀樹教授のグループは太陽光エネルギーを効率よく捕集し、光反応中心まで効率よくエネルギーを伝達する機構の研究を行っています。また、木下勇教授のグループでは、二酸化炭素・水素・酸素からメタノールなどを合成するのに必

要な触媒の研究を行っています。本学ではこれらの研究を総合し「人工光合成研究」プロジェクトを発足させました。

光合成技術開発のロードマップでは、2030年までにメタノールなどのアルコール系燃料を生産することを目指します。研究はまだ基礎研究の段階ですが、出口を見据えた戦略が必要と考え、早い時期に産学共同研究を推進し戦略を共有して

研究を進めていきたいと考えています。

本拠点整備事業は、大阪市の平成23年度補正予算で認められたもので、総額8億8000万円で拠点の建物とX線回折装置やデジタルNMR装置などの大型設備を整備する予定です。本建物は3階建て、延べ床面積約1500平方メートル、完成は2013年春を目標に

しています。企業の入居スペースとして2階と3階に独立した居室、実験室を用意しています。4社程度が独立して人工光合成に関連したテーマを推進することが可能です。

産学連携のしくみとして、1つは「共同研究講座」制度を導入します。大学と入居企業が複数年度の契約を締結し、企業から研究員を招聘教授または准教授として迎えます。大学は場所と設備を提供すると同時に、専任の教員や若手研究者を講座に配置して企業との共同研究に専念させます。拠点の運営や人工光合成研究の戦略は、入居企業と大学で組織する「人工光合成産学連携拠点運営委員会(仮称)」で決定します。

もう1つのしくみは、人工光合成の研究の成果を公開し、広く関連産業の育成を図るために、「人工光合成フォーラム(仮称)」を組織するというものです。

人工光合成 産学連携拠点の完成予想図



有機化合物の構造を分析するための電子スピン共鳴 (ESR) 装置 (理学研究科内)



## レアメタル不要、大電気容量の有機スピン分子バッテリーを開発

3



理学研究科 工位武治特任教授

論を基に、今回新たに電子特性の高いTOTを設計・合成し、これまでのリチウムイオンバッテリーの1.3~2倍の電気容量を達成しました。

今後、構造をさらに様々な形に変化させることによって、電池の特性を設計することも可能になると考えられています。また有機物質を使うことによって、レアメタルの不足や価格の高騰による影響を軽減することができ、産業界への波及効果が期待されます。

工位特任教授は「軽量・安全で繰り返し使用に耐える高性能電池を量産できれば、電子機器のバッテリーだけではなく、電気自動車への搭載も可能」と話しています。

この研究成果は昨年10月16日、英科学誌ネイチャー・マテリアルズの電子版に掲載されました。

**本** 理学研究科の工位武治特任教授と大阪大学の森田靖准教授らの研究グループは、既存のものよりも電気容量が高く、レアメタルの一種であるコバルトを使用しない新たなリチウムイオン電池(バッテリー)を作り出すことに成功しました。

リチウムイオンバッテリーは現在パソコンや携帯電話などを中心に様々な電子機器に使用されていますが、埋蔵量が少なく価格の変動が大きいレアメタル(コバルト)を材料に用いています。今回開発に成功した電池はコバルトを使わず、代わりに「トリオキソトリアンギレン(TOT)」と呼ばれる石油から作り出した有機物質を使用しています。

有機スピン分子に関する研究では、工位特任教授らの研究グループは草分け的な存在で、電子を効率よく蓄えられる構造をもつ有機分子をバッテリーへ応用する理論を2002年に発表しました。その理

入れることによって、古くからの住人とともにコミュニティを継続させていくことができます。それが街の活性化につながり、大阪の住文化を残していくことにもつながります」と話しています。

またこの取り組みは生活科学研究科の授業カリキュラムとしても行われており、2010年度日本建築学会の教育賞も受賞しています。

## 4 都市研究プラザ 豊崎プラザの研究プロジェクトが2011年度グッドデザイン特別賞を受賞

**都** 市研究プラザの現場プラザの1つ、豊崎プラザで取り組んでいる研究プロジェクトが2011年度グッドデザイン特別賞を受賞しました。今回受賞したグッドデザイン・サステナブルデザイン賞は、地球環境問題を踏まえ持続可能な社会の実現をめざしている活動に贈られます。

90年前に建てられた豊崎長屋群(大阪市北区)は、建物の老朽化や住人の高齢化、空き室の増加など様々な問題を抱えていました。都市研究プラザと生活科学研究科では空き家に耐震補強や改修作業を施し、長屋本来が持つ魅力を再生させるための活動を行っています。

プロジェクトに関わる小池志保子准教授(生活科学研究科)は、「『リデザイン』を行ったことが新たな試みです。古いものを壊して新しいものを作るのではなく、空き室に適宜リフォームを行い、少しずつ新たな住人を迎え



改修した長屋の2階から母屋を見る



風東長屋(ふうとうながや)と名付けられた長屋の2階



前列左より竹原義二教授、西澤学長、谷直樹教授  
後列左より藤田忍教授、小池志保子准教授

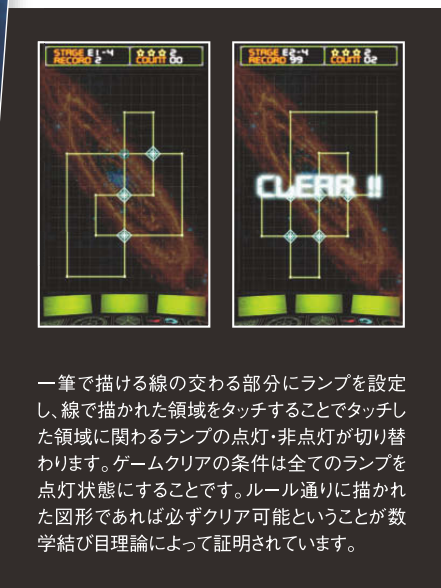
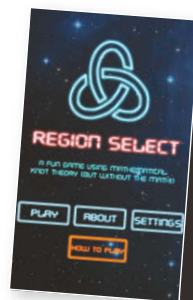
## 5 結び目理論を応用した新感覚パズルゲーム 「Region Select」がアンドロイドアプリに登場

**大**阪市立大学数学研究所と株式会社グローバルエンジニアリングの共同研究により開発された新感覚パズルゲーム「Region Select」が、アンドロイドアプリとしてリリースされました。

「Region Select」は、ルービックキューブや数独と同様に数学理論を応用して開発されたゲームですが、数学知識は不要で操作もシンプル、文字や数字も使わないため国籍、年齢を問わず幅広いユーザーが楽しめるものになっています。

このゲームのもととなったのは、数学研究所の河内明夫教授、清水理佳研究所

員らの研究グループが数学の「結び目理論」を応用して開発した「領域選択ゲーム」です(特許出願中)。ゲーム以外にも、初等教育や認知機能のリハビリで図形を認識する訓練の一環としての利用や、照明装置の新しい点灯方式への応用など産業分野への応用が期待されています。



一筆で描ける線の交わる部分にランプを設定し、線で描かれた領域をタッチすることでタッチした領域に関わるランプの点灯・非点灯が切り替わります。ゲームクリアの条件は全てのランプを点灯状態にすることです。ルール通りに描かれた図形であれば必ずクリア可能ということが数学結び目理論によって証明されています。



実際に販売された「さこのこたつぶり秋野菜丼」

**生**活科学部では4年生を対象に、管理栄養士としての応用実践力の修得を目的に総合演習を行っています。今年度はテーマを「生協テイクアウト弁当『あったか丼』のメニュー改善」とし、実際に管理栄養士としての視点から実態調査およびメニュー改善、生協へのメニュー提案、販売、アンケート調査・分析までを行いました。

このテーマは管理栄養士として社会の

## 6 生活科学部 総合演習の取り組み 「生協テイクアウト弁当『あったか丼』のメニュー改善」を通して

様々な領域において、人々の食・健康管理をどのように進めていくかを実践的に学ぶことをねらいとしています。

今年度の主担当である春木敏教授は「これまでの管理栄養士は専門知識に偏る傾向にありましたが、現在は暮らしに活かすことのできる栄養教育を担う力が求められています。そこで総合演習では、実際に生協の担当者と話合いながら材料のコストや利益率を考慮し、自分たちが販売にも関わることにより専門性だけでなく、社会的スキルやコミュニケーション能力を修得することができます。また、大学内で販売し、実際に『あったか丼』を購入した学生や教職員の食に対する意識を高め、食生活管理

の改善を促します」と話しています。

12月7日に行われた演習では、各グループの実際の売り上げやアンケート結果などを含む活動報告がありました。計画通りに調製・販売ができたか、利益率はどうか、さらに杉本キャンパスのヘルシーランチをめざして等、お互いのグループワークを通じた活発な意見交換がされました。



演習では各グループが売上結果等を報告

## 7 「住空間ecoデザインコンペティション」にて 生活科学研究科学生作品が優秀賞を受賞

**住**空間ecoデザインコンペティション」Real Size Thinking 2011にて生活科学研究科の修士課程1年生 池嶋智さん、植高司さん、板敷文音さんらの作品「Fu-monica」が優秀賞を受賞しました。

「住空間ecoデザインコンペティション」は地球にやさしい住空間・住環境づくりに向けた社会的貢献と、産業界と学界との

連携の推進を目的とした学生向けデザインコンペティションです。

受賞した作品「Fu-monica」は風が吹くと音が鳴るベンチで、人が座ると音が変わります。都会の中で視覚情報に頼らずに自然に気づく瞬間を作ろうとした作品です。素材はステンレスで、風でふわと膨らんだ布をイメージしています。



受賞作品「Fu-monica」風が吹くと音が鳴るベンチ



## 【大学トピックス】

Topics



### ■ 三井住友銀行との包括連携協定を締結

本学は平成23年11月29日に株式会社三井住友銀行と包括連携協定を締結しました。

包括連携協定を締結することにより、大学の使命である、教育、研究、地域貢献をはじめとする各分野における協力体制を構築し、金融取引のみならず、学生の就職支援や、留学支援などの学生支援、企業との共同研究や本学の知的財産の活用などの産学連携、生涯教育や市民講座などの地域貢献など、あらゆる分野においてより発展的、効果的な成果を期待できると考えています。

特に第二期の中期計画期間においては、人工光合成研究、都市防災研究、健康科学研究を重点的に取り組む都市科学研究と位置付けているため、こういった分野における協力関係を意識しています。金融機関の持つ様々な国内外の情報や経験は、相互の関係を深めることで広がりや繋がりを生み、大いに大学の発展に活かす事ができると考えられます。

### ■ 大学サポーター事務局の設置と大学旗の貸出制度について

保護者・卒業生および同窓会等に関する事務を担当する「大学サポーター事務局」が平成23年7月に設置されました。事務局では、今年度から保護者の皆様に本学についてより理解を深めていただくため、広報誌や公開講座開催等のお知らせをお送りしています。今後は卒業生やOB教職員の皆様とも緊密なネットワークを築いていきたいと考えています。



また、事務局では卒業生や現職・OB教職員の皆様にこれまで以上に愛校心や大学の取り組みについて関心をもっていただくため、大学旗(レプリカ)を作成し、平成24年1月より貸出を始めました。同窓会や懇親会等で使用していただき、会場の雰囲気高め、会がより一層盛会になれば幸いです。開催の様子については可能な範囲で本学ホームページや広報誌等に掲載させていただきます。

大学旗(レプリカ)の貸出については、本学ホームページをご参照ください。

大学旗(レプリカ)の貸出については、本学ホームページをご参照ください。

### ■ 平成23年度「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に文学研究科、理学研究科が採択

日本学術振興会の平成23年度頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムに、本学文学研究科と理学研究科が申請した2つの事業が採択されました。

このプログラムは、大学等の研究機関が、研究組織の国際研究戦略に沿って世界水準の国際共同研究に携わる若手研究者を海外へ派遣し、様々な課題に挑戦する機会を提供する取組を支援するものです。

#### ■ 採択された事業

理学研究科 「数理と物理の深化と展開、  
数学研究所を拠点とする国際ネットワークハブの形成」  
Deeping and Evolution of Mathematics and Physics,  
Building of International Network Hub based on OCAMI

文学研究科 「東アジア都市の歴史的形成と文化創造力」  
Historical Formation and Cultural Creativity of East Asian Cities

### ■ 「就職に強い大学ランキング」全国12位にランクイン

週刊ダイヤモンド(12/10号)の「就職に強い大学ランキング」で、大阪市立大学が全国の大学の中で12位、西日本では京都大学について2位にランクインしました。

本学は、就職支援を就職情報会社や生協などに外部委託することなく、独自の方針に基づき求人企業の開拓と学生の指導・育成を行ってきました。その方針が多くの企業の理解と賛同を得ています。学内に企業を招いたセミナー・求人説明会の開催日数は他大学より多く、学生1人当たりの参加企業数も高水準です。(2012年3月卒業生対象:66日、のべ856社)「Back to Campus」をテーマに学内で正課・課外の活動を行いながら、多くのビジネスモデルと接する環境を整えたことが、今回の評価につながったと考えられます。

### ■ 「全国大学の地域貢献度ランキング」全国9位にランクイン

日経グローバルNo.184(11/21号)の「全国大学の地域貢献度ランキング」にて大阪市立大学が全国の大学の中で9位にランクインしました。

この調査は全国731の大学を対象に、各大学の地域貢献体制の充実度、東日本大震災への支援、学生の地域内就職やインターンシップ実績、産学連携や行政との連携、市民公開講座などの地域住民へのサービス度の4つの観点から評価し、回答を点数化して順位に表しています。

本学は都市研究プラザの活動「船場アートカフェ」のプロジェクトや、大阪の伝統芸能「文楽」を学ぶ「上方文化講座」などを通して、大学と地域とが協働して街の魅力を発信し、新しいコミュニティの形成を行う取り組みなどが高く評価されました。

## 入試情報 ◎ 社会人向けの入試制度について

### 科目等履修生制度

本学では、社会人等が大学の授業科目のうち志望する科目のみを履修し、単位を得ることができる科目等履修生制度を設けており、募集を行います。 ■ 出願期間：平成24年2月29日(水)～3月2日(金)〔消印有効〕

### 社会人入試を実施している学部・研究科

本学では次の学部・研究科で社会人入試を行っています。募集時期、入試内容等詳細については、本学WEBサイト(<http://www.osaka-cu.ac.jp/>)をご覧ください。

学部	大学院
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前期博士課程・後期博士課程</li> <li>●前期博士課程のみ</li> <li>●後期博士課程のみ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前期博士課程のみ</li> <li>●後期博士課程のみ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前期博士課程のみ</li> <li>●後期博士課程のみ</li> </ul>

学生募集要項は本学WEBサイト(<http://www.osaka-cu.ac.jp/>)から、直接テレメールにより請求することができます。

大阪市立大学都市防災研究報告会

「いのちを守る都市づくり」

本学では東日本大震災をうけて、分野横断の組織で「新たな都市防災」の研究・教育に努めています。この報告会は東日本大震災における震災直後から復興始動までの一年の動きを整理し、これからの都市防災のあり方を市民とともに考えるために企画されました。

これからの新しい都市防災にむけて、「いのちを守る」ことを第一に、個別に考えていた災害を複合災害として見直します。多重防御の視点をもちながら、コミュニティ再生の立場に立った新しい防災都市のあり方を考えます。今回は、広く市民を対象としたシンポジウムとして開催します。

詳しくはホームページをご覧ください  
<http://odrp.life.osaka-cu.ac.jp/index.html>

【日時】平成24年3月15日(木) 18:30~20:30(開場18:00)

【場所】ヴィアール大阪(大阪市中央区安土町3-1-3)

【定員】200名 【費用】無料 【申込方法】不要

【プログラム】

<第1部/基調講演>

- 「いのちを守る都市づくり」  
宮野 道雄(大阪市立大学副学長)

<第2部/パネルディスカッション>

- 「東日本大震災の被害と課題」  
三田村 宗樹(大阪市立大学理学研究科教授)
- 「災害時救命医療のあり方」  
山本 啓雅(大阪市立大学医学研究科准教授・災害派遣医療チーム)
- 「大阪市における都市防災の対応」  
水野 智雄(大阪市危機管理室)
- 「地域コミュニティと都市防災」  
高橋 英樹(大阪市住吉区長)



平成24年度大阪市立大学国際学術シンポジウム “Progress in Quantum Field Theory and String Theory”

【日時】平成24年4月7日(土) 17:00~19:30(開場16:30)

【場所】大阪国際会議場(グランキューブ大阪)最上階特別会議場  
(大阪市北区中之島5-3-51)

【定員】200名

【費用】無料

【申込方法】メールにて受付 [uandpocu@sci.osaka-cu.ac.jp](mailto:uandpocu@sci.osaka-cu.ac.jp)

【プログラム】

<講演>

- 「対称性の自発的破れと素粒子物理」  
糸山 浩司(大阪市立大学大学院理学研究科教授)
- 「宇宙の始まる前」  
横山 順一(東京大学大学院理学系研究科・ビッグバン宇宙国際センター教授)
- 「究極理論に向けて—超弦理論の展望」  
川合 光(京都大学大学院理学研究科教授・京都大学G-COE拠点リーダー)

市民講演会「宇宙と素粒子のなりたち」

大阪市立大学は2008年ノーベル物理学賞を受賞された南部陽一郎先生(シカゴ大学名誉教授、大阪市立大学特別栄誉教授)が教鞭を取られた国内唯一の大学であり、この学問分野の研究・教育活動を今日まで活発に続けています。このほどミクロの理論物理学の最先端に位置する上記国際会議を開催し、最終日にはこの学問への導入として、一般市民向けの講演会を開催します。

「宇宙と素粒子」を大きなテーマにとり、その中でも南部先生が創始された「素粒子物理に於ける対称性の自発的破れ」及び「弦(紐)」と、宇宙観測の発達と共に進歩を遂げた「超初期宇宙」の物理に関して、その魅力・最新の動向を、フロンティアで活躍する本学及び他大学の研究者が、わかりやすい言葉で解説します。

詳しくはホームページをご覧ください  
<http://jpp1.jp/qftstr12/>

●この他、本学が主催しているイベント情報等についてはホームページ <http://www.osaka-cu.ac.jp> をご覧ください。

大阪市立大学広報誌

CITY  
X  
UNIVERSITY Vol.10

発行：公立大学法人 大阪市立大学

企画・編集：大学広報室

デザイン協力：desk

印刷：竹田印刷株式会社

発行日：2012年1月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は

大阪市立大学 大学広報室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

tel:06-6605-3411 fax:06-6605-3572

e-mail : [koho@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:koho@ado.osaka-cu.ac.jp)

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究の創造拠点

Osaka City University  
 大阪市立大学  
 OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部  
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院  
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター  
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>